

P - 0129

透析患者における透析中の 下大静脈径(IVC径)の検討

両国東口クリニック

松山 良信

西連地康 矢澤昭浩

諸見里仁 大山博司 大山恵子



両国東口クリニック
RYOUGOKU EAST GATE CLINIC

[目的]

透析患者における透析中の下大静脈径(IVC径)の経時的測定が適正体重の指標となり得るか調べた。

[対象]

当院の外来維持透析患者で1回4時間で週3回行っている30名を対象とした。

[方法]

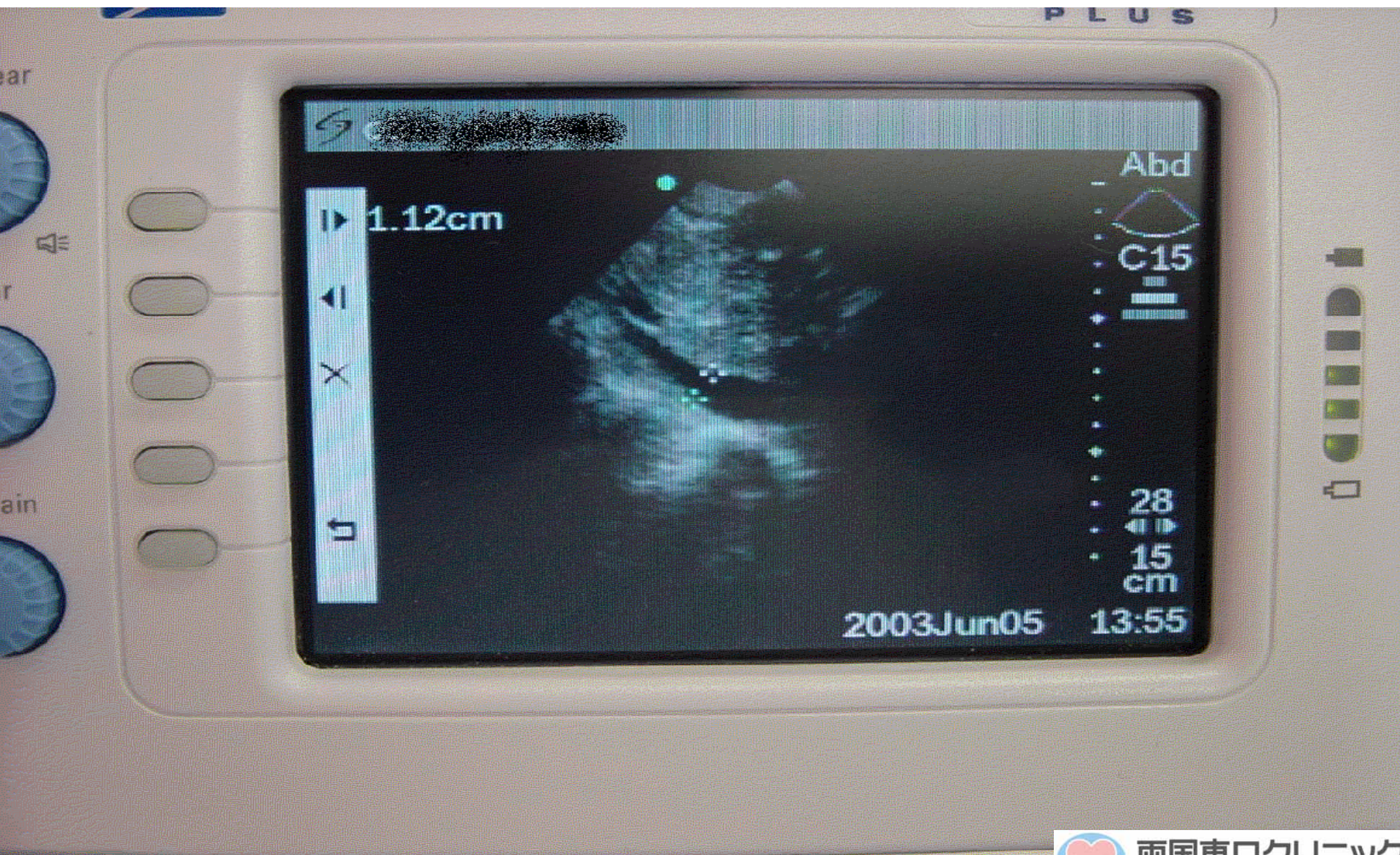
ポータブル超音波測定器(SonoSite社製180PLUS)を使用し、透析開始より終了まで1時間毎にIVC径を測定し、透析前・中・後のIVC径の関係について検討した。



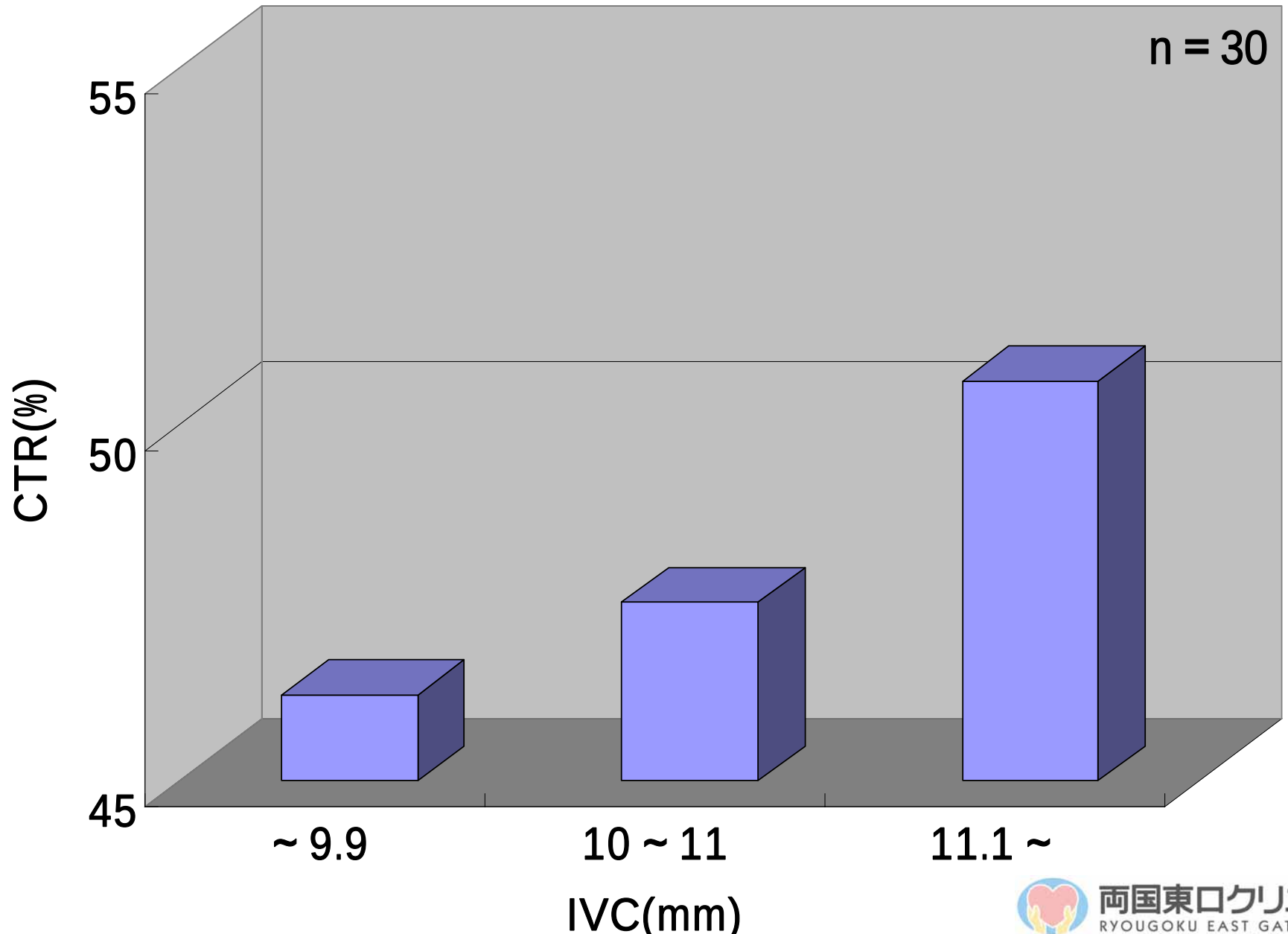
SonoSite社製180PLUS



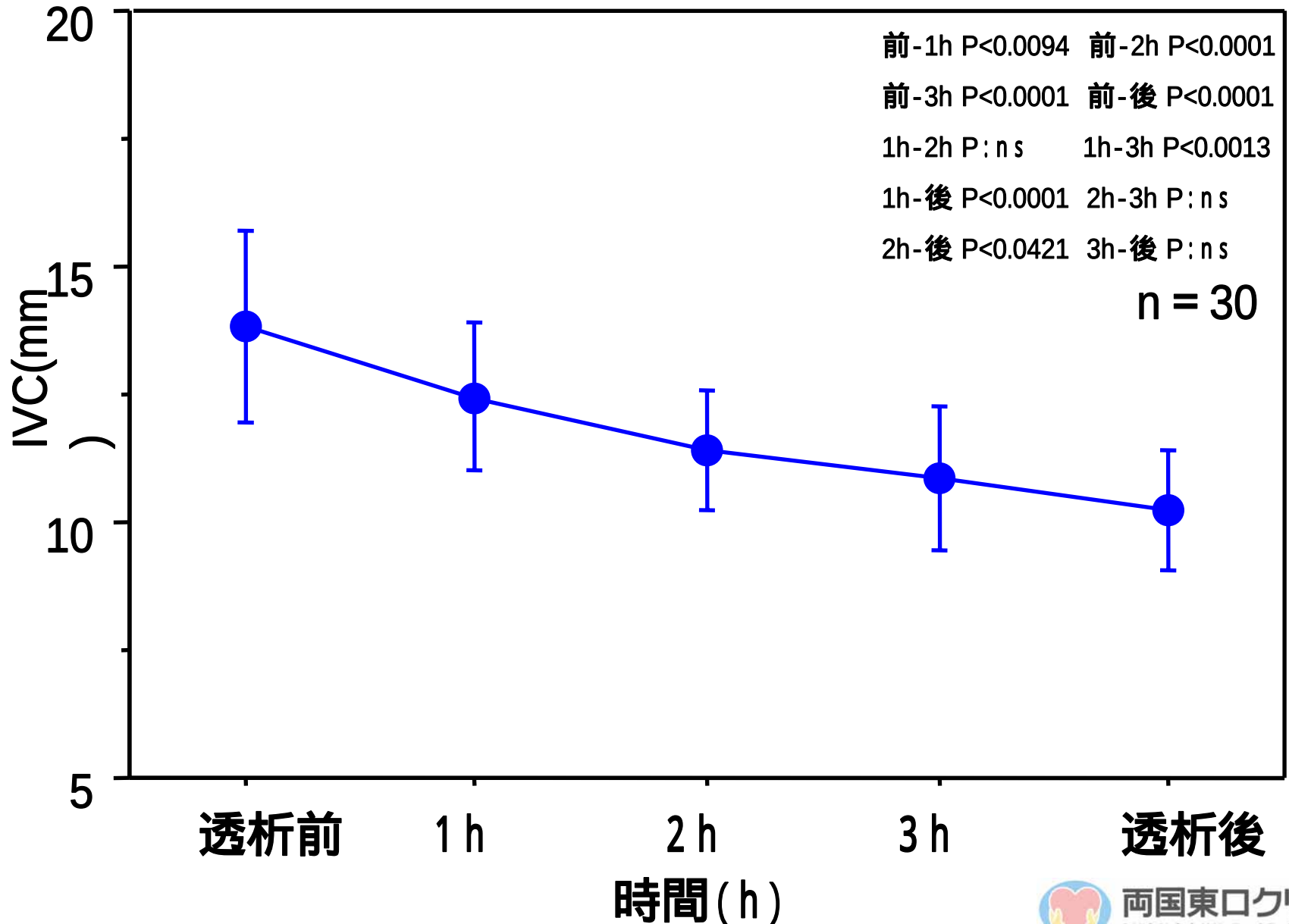
SonoSito社製180PLUSで得られた画像



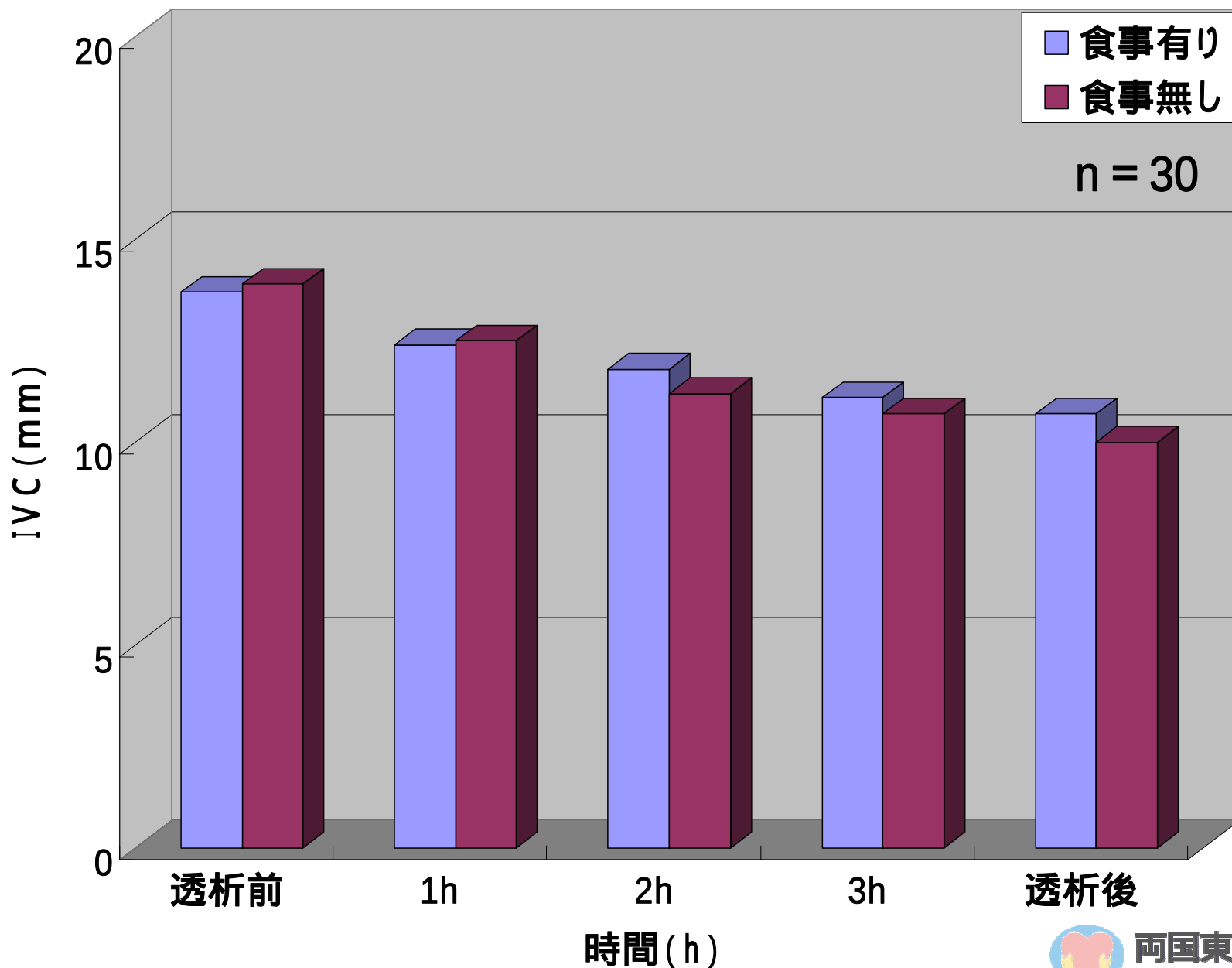
透析後IVC径とCTRの比較



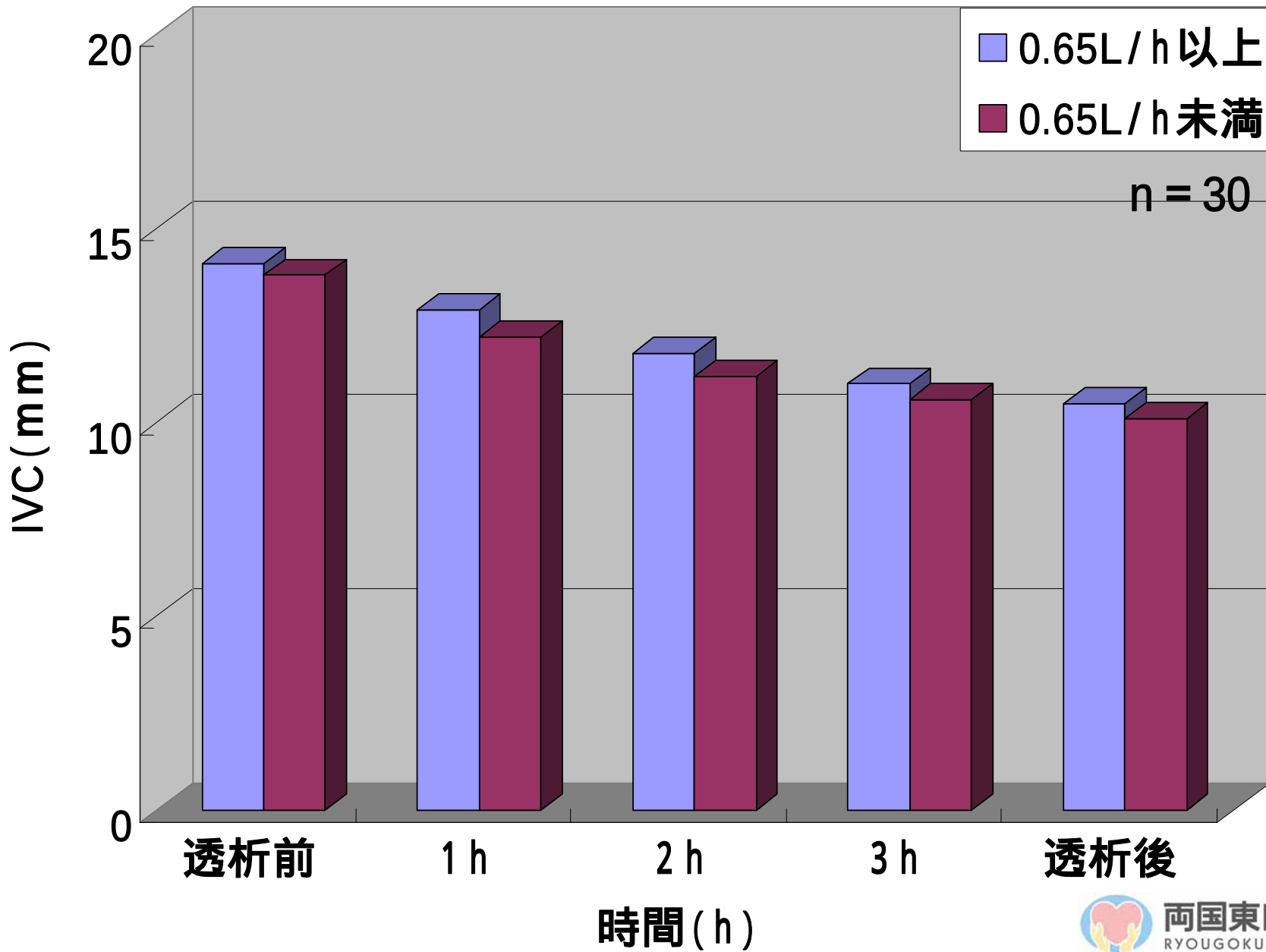
IVC径の経時的変化



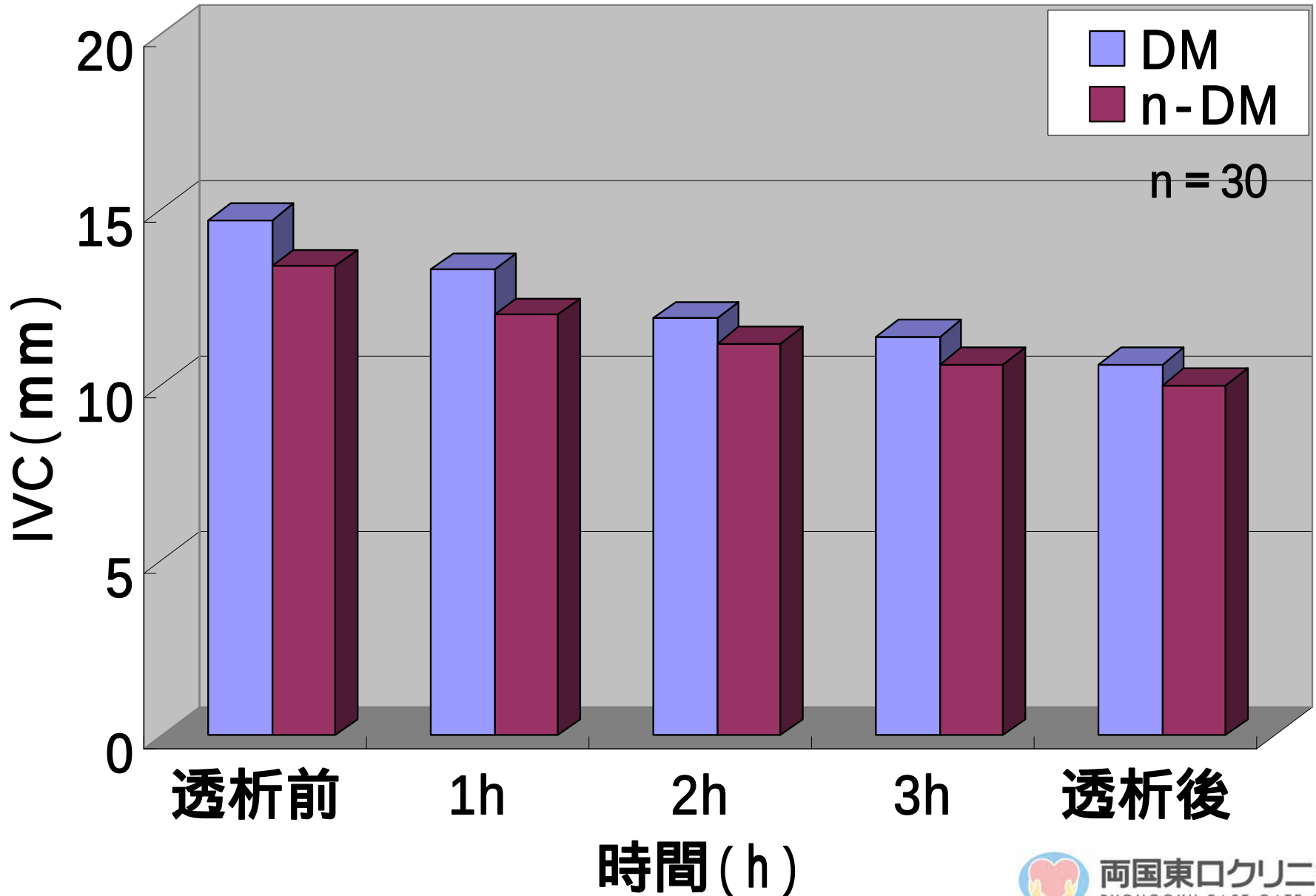
透析時の食事有無による比較



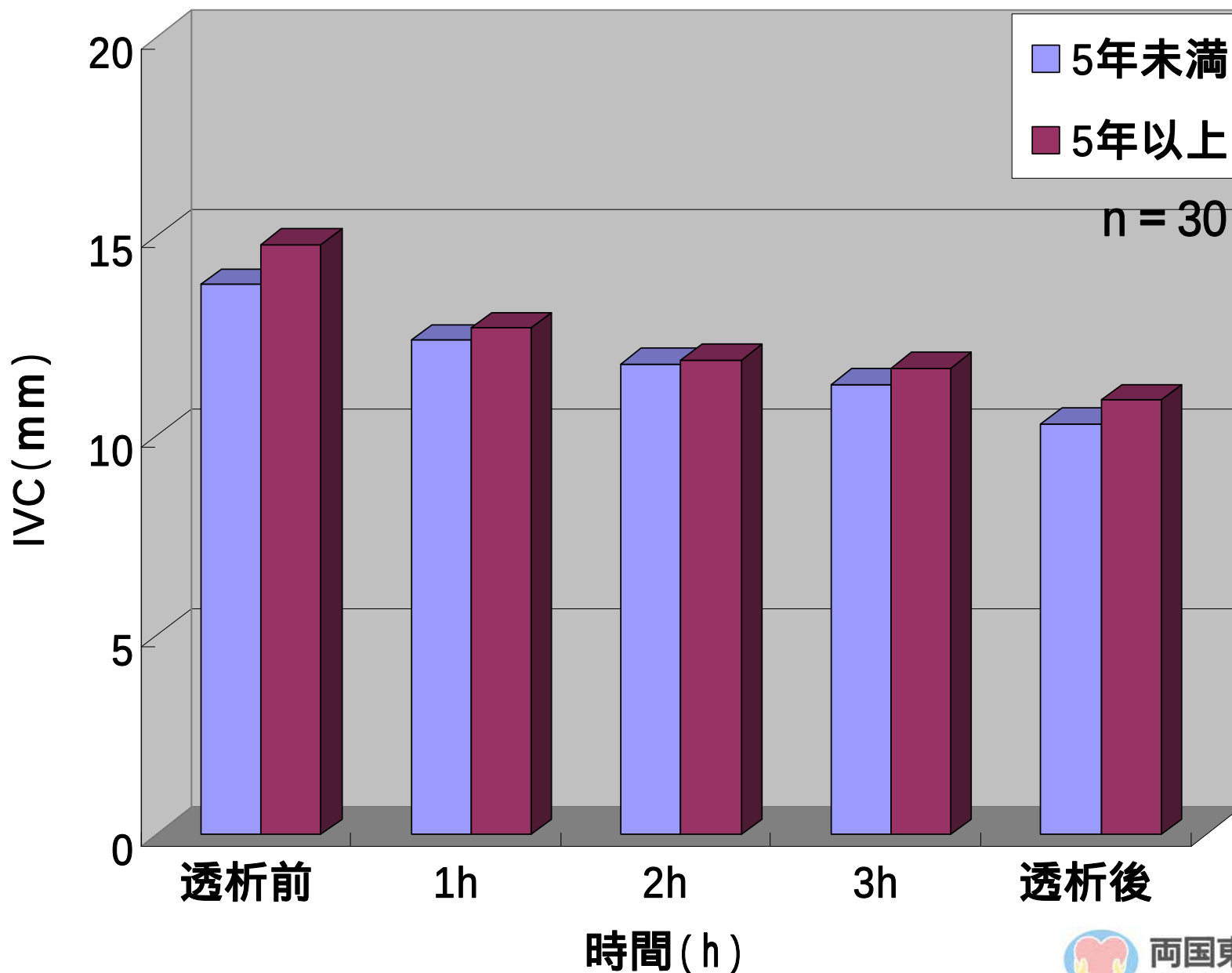
除水速度による比較



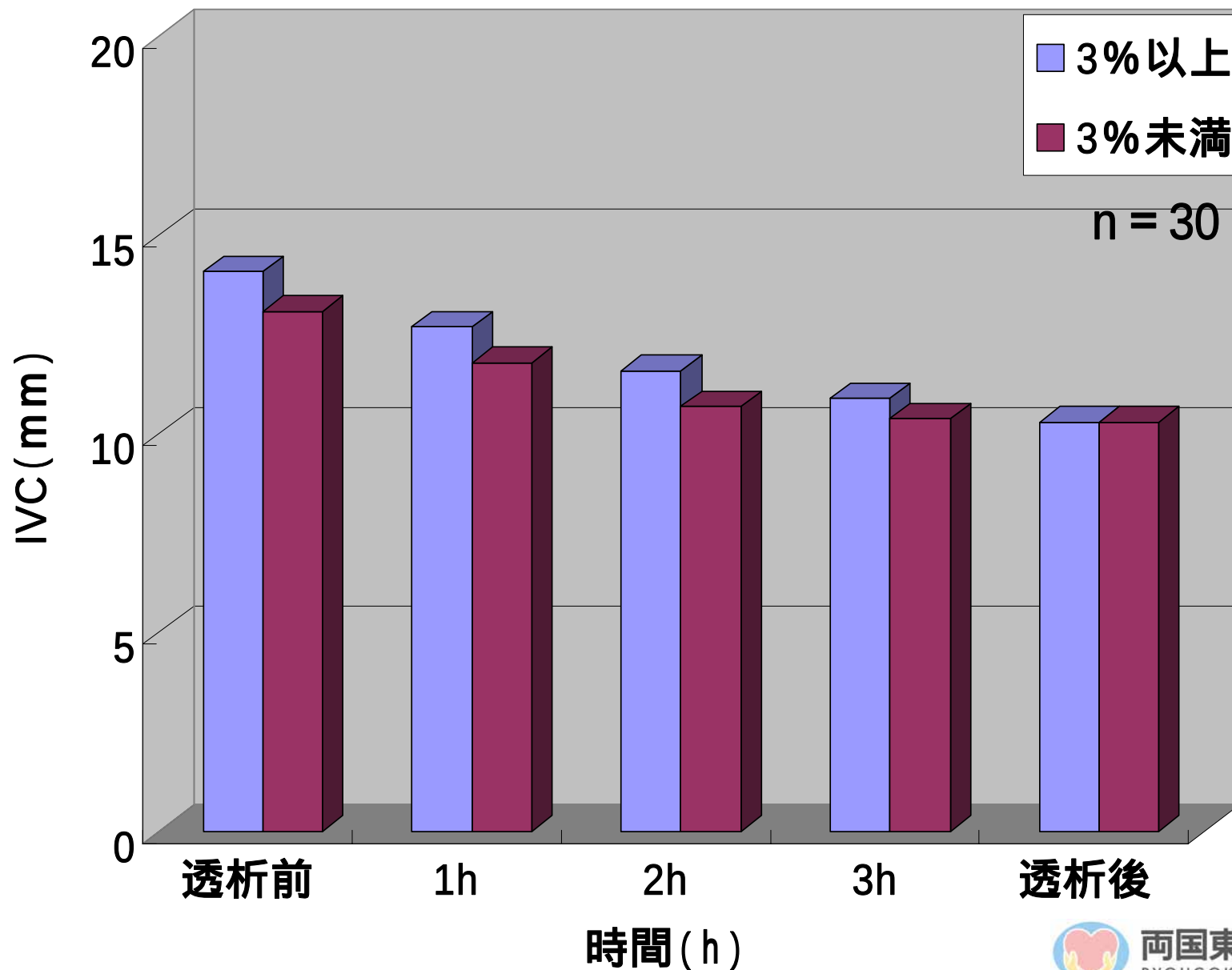
原疾患 (DM、n-DM) による比較



透析歴による比較



DWと増加率による比較



結果

- ・透析前、後のIVC径に有意差が見られた。
- ・除水量とIVC径に相関が見られた。
- ・IVC径とCTRに相関が見られた。
- ・透析歴、年齢、除水速度、除水量などによる有意差は見られませんでした。
- ・原疾患(DM群n-DM群間に)有意差が見られた。



結語

透析患者に透析中のポータブル超音波測定器を使用してのIVC径の測定は適正体重の検討の指標となる可能性がある。

